



TOEIC980点
国際派ビジネスマンの



英語を一気に勉強



第1章ダイジェスト

100時間で、4000語を覚える

600時間で、TOEIC730点・
東大合格点をとる

Toru Okatsu

はじめに

英語を一気に勉強

「英語を一気に勉強」と言っても、一気に英語を全てマスターするということではありません。「英語を一気に勉強」できるのは、「TOEIC730点や東大合格点をとれるくらいのレベル」までです（注）。そのレベルまでなら、一気に勉強できます。

そのレベルまでの英語学習は、リーディングやリスニングが中心です。英語を理解し受動的に習得するのが中心です。英語を受容するのは、正しくやれば効率よく出来ます。

それがかつ、TOEIC730点や東大の入試で合格点レベルまでなら、「英語を一気に勉強」できます。「英語を一気に勉強」できるというのは、そのレベルまでです。

決して、それより上のレベルの英語力のことではありません。

特に、ライティングやスピーキングを一気に勉強することではありません。それらをマスターするのは簡単ではありません。それらを一気にマスターすることはできません。

（注）「東大合格点」、すなわち「東大の英語の入試で合格点」の「合格点」というのは、（理Ⅰ・理Ⅱ・文Ⅰ・文Ⅱ・文Ⅲの）「合格最低点」ということです。「合格平均点」ではありません。東大の英語の入試で50%強の点数のことです。ですから、理Ⅲの合格点（合格最低点）でもありません。

第1章 100時間で、4000語を覚える

「1」英単語は、二段階で覚える

英語知識は、英文読解しながら覚える

二段階で覚える

英単語も、二段階で覚える

1時間40語のペースで、本当の記憶にする

「2」カタカナ語を利用して覚える

カタカナ語で 英単語を覚える …… 1語50秒のペース

カタカナ語で 覚えられるのは、700語

「3」語源を利用して覚える

語源を利用して、英単語を覚える

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚える …… 1語1分半のペースで覚えていける

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていなければ、記憶効果は大幅 減

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていなければ、昔と同じ

語源を利用して覚えられるのは、1200語

「4」連語で覚える

連語で覚える …… 1語2分のペース

連語で、1100語を覚える、

「カタカナ語 → 語源 → 連語」の順に覚える

「5」派生語で覚える

派生語で覚える …… 1語数秒で覚えられる

英単語と 派生語を いっしょに覚えるのは、間違い

派生語で覚えられるのは、1000語

「6」100時間で、4000語を覚える

100時間で、4000語を覚える

「100時間で、4000語」の後は、二段階目の「英文読解」

「7」単語集は、通読して覚える

単語集は、通読して覚える

自然に記憶 → 長期記憶 → 関連性を利用して覚える

時間のロスなんて、気にする必要ない

「1」 英単語は、二段階で覚える

英語知識は、英文読解しながら覚える

英単語や熟語・文法・構文などの英語知識は、**長文の英文の中で覚える**べきです。

長文の英文の中では、英単語などの英語知識を**周りの状況とともに覚えられます**。ですから、

(1) 英単語などの英語知識の**さまざまな意味**を、楽に覚えていけます。

(2) 英単語などの英語知識を、楽に「**使える知識**」にしていけます。

そのため、**英語知識は、英文読解しながら長文の英文の中で覚える**といいのです。

二段階で覚える

でも、英単語や熟語・文法・構文について、英文読解して覚えるより効率のいい覚え方があります。

ただ、そういう覚え方では、1つか2つの意味くらいしか覚えられません。**さまざまな意味・用法は覚えられません**。でも単に英語知識を覚えるということに限っては、大変効率よく覚えられます。

英単語を覚えるとき**最も時間と労力を要する**のは、「**英単語**」と「(1つの)**意味**」を初めて覚えることです。

ですから、

(1) 先に、効率よく覚えられる方法で覚えます。

(2) そうすればその後、さまざまな意味・用法を覚えるとき、それに**連ねて覚える**ことができます。

ですから、**二段階で覚える**ほうが、始めから英文読解で覚えるよりも楽に効率よく覚えていけます。二段階で覚えるやり方が、いちばんいい覚え方になるのです。

英単語も、二段階で覚える

英単語の場合は、つぎのようにして覚えます。

(1) **カタカナ語**を利用して覚えます。

語源を利用して覚えます。

連語を利用して覚えます。

派生語を利用して覚えます。

これらは大半、単語集を使って覚えます。

(2) その後、英文読解して英文の中で覚えます。

カタカナ語や語源・連語・派生語を利用して英単語を覚えると、英文読解して覚えるより格段に効率よく覚えられます。ですからこのようにして、二段階で覚えていきます。

二段階で覚えるやり方は一見、二度手間が無駄をしているように見えます。しかし、初めから英文読解して英文の中だけで英単語を覚えるよりも、二段階で覚えるほうが、時間がかかりません。そのほうが、効率よく覚えられます。

1時間40語のペースで、本当の記憶にする

(二段階で覚えるときの 一段階目の) 単語集を使って、カタカナ語や語源・連語・派生語で英単語を覚えるとき、

100時間で、4000語は覚えられます。1時間40語のペースで覚えていきます。

でもそう言うと、つぎのように誤解する人がいます。

「いったん覚えるだけなら、丸暗記できる。1時間じゃなく、30分で 英単語を40語 丸暗記できるときもある。だから、1時間で40語なんて簡単だ」

と思う人もいるでしょう。

しかし、違います。いったん覚えるのではなく、(半永久に覚えていられるような) 本当の記憶にしなければいけないからです。1時間40語のペースで、本当の記憶にしなければいけません。

時間が経つとボロボロ忘れる丸暗記では、1時間で40語のペースで本当の記憶にすることはできません。カタカナ語や 語源・ 連語・ 派生語を利用して覚えてこそ、できることです。

「2」 カタカナ語を利用して覚える

カタカナ語で 英単語を覚える …………… 1語50秒のペース

カタカナ語を利用して英単語を覚えるというのは、

「アシスト」とか「インスタント」、「ハイクオリティ」、「ビジュアル」、「ポジティブ」

などの（既に知っている）カタカナ語を利用して英単語を覚えていくのです。

「ハイクオリティ」から、「quality、質」を覚えます。

このように、カタカナ語の発音と意味を元にしてそれに関連させて英単語を覚えていきます。そのため英単語を覚えるといっても、既に英単語（の発音と意味）の3分の2を覚えているようなものです。

ですから、すぐ覚えられます。1語40秒か50秒で覚えられます。遅くとも1分で本当の記憶にできます。（平均して）1語50秒のペースで覚えていけるでしょう（注）。

（注）「1語50秒のペースで覚えていける」というのは、いつときに1語に50秒かけて覚えていくのではありません。

数週間かけて、何回かに分けて繰り返して、1語につき50秒かけて覚えるということです。初めて覚えるときは、全体（50秒）の3分の1くらいかけて覚えることになるでしょう。語源や連語・派生語で覚える場合も、同じです。

カタカナ語で 覚えられるのは、700語

大学入試やTOEIC850点レベルまでで必要な単語の数は、5000語くらいです。頻出5000語です。そのうち中学レベルの単語が1000語あります。それらは、（高校生以上の）読者のほとんどの方が覚えていられると思います。ですから、あと4000語です。

カタカナ語で英単語を覚える場合、ひとそれぞれ知っているカタカナ語の数が違います。頻出5000語の範囲では、大半の方が1000語までは知っていないでしょう。あまり知っていない方でも、700語くらいは知っているでしょう。

ということで少なめに目安を立てても、カタカナ語で覚えられる語数は、700語くらいでしょう。

「3」 語源を利用して覚える

語源を利用して、英単語を覚える

「連想式にみるみる身につく語源で英単語」(学研、清水健二 著)

「イラストで記憶に残る 語源ビジュアル英単語」(学研、清水健二著)


「部品で覚える入試重要2300語 つむぐ英単語」

(河合出版、内田弘樹 /Sarah S. Haas 著)

このような単語集で、(英単語の)語源を利用して覚えると効率よく覚えられます。

英単語にはその語源から、「接頭辞や 語幹・接尾辞」という部分に分解できるものがあります。

- (a) 接頭辞 …… 単語の前につき、単語の意味を変化させるモノ。
- (b) 語幹 …… 単語の意味の中心をなすモノ。
- (c) 接尾辞 …… 語尾につき、品詞を変え派生語を作るモノ。

たとえば「attraction、 魅力」という英単語は、つぎのように分解できます。

- (a) 「a」という接頭辞は、「対象へ」ということ、
- (b) 「tract」という語幹は、「引きつける」という意味、
- (c) 「ion」という接尾辞は、(動詞に付いて)名詞を作る働きを持っています。

「対象を引きつけるモノ」ということから「魅力」という意味を連想できます。それで覚えやすいのです。


「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚える …… 1語1分半のペースで覚えていける

語源を利用して英単語を覚えるとき、このような「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えておきます。

- (a) カタカナ語の英単語を利用して、前もって覚えます(注1)。
- (b) 既知語を利用して、前もって覚えます。

そうすれば、

「attract、 引きつける」

「distract、 (気を)そらす」 (dis、反対)

「 extract 、 ㊦ 抽出する ㊧ エキス 」 (ex 、 外へ)

「 contract 、 ㊦ 契約する ㊧ 契約 」 (con 、 共に)

「 abstract 、 ㊦ 抽象化する ㊧ 抽象 ㊨ 抽象的 」 (ab 、 逆に)

以上のように、1つの語幹からたくさんの英単語を覚えていけます。語幹を1つ覚えれば、いつかこんなにたくさんの英単語を簡単に覚えられます (注2)。

ですから、英単語を1語1分半のペースで十分覚えていけるでしょう。ただし、「接頭辞や語幹・接尾」辞を前もって覚えていなければ、1語1分半のペースは無理です。

(注1)

(1) カタカナ語の「遊園地のアトラクション」から「 attraction 、 ㊧ 魅力」を覚えて

、
(2) 「 attraction 、 ㊧ 魅力」から、「tract 、 引きつける」という語幹を覚えれば、簡単に覚えられます。

このように、カタカナ語の英単語を利用して「接頭辞や語幹・接尾辞」を覚えると、効率よく覚えられます。

ですからカタカナ語の英単語は、「語源を利用して覚える」単語集の中から選び出して覚えていくといいでしょう。

(注2) 頻出5000語内の英単語を、語源を利用して覚えるとき、語幹は少なくとも300個くらい覚えなければいけないでしょう。

でも、「接頭辞や接尾辞」の主要なものは、20種類くらいで数が少なく、既に大半のものを多くの方が覚えていると思います。

ですから、語源を利用して覚えるというのは、実質 語幹を利用して覚えるのに近いでしょう。

(続 「3」 語源を利用して覚える)

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていなければ、記憶効果は大幅減

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えなくて、「英単語」といっしょに覚えると、つぎのようになります。

(1) いっしょに覚えているときは、互いを見ながら覚えているので、「接頭辞や語幹・接尾辞」から「英単語の意味」を連想できます。

ですからそのとき、短期記憶にするときには、「接頭辞や語幹・接尾辞」を利用して覚えています。覚える助けになっています。

(2) でもその後時間が経ったときは、「接頭辞や語幹・接尾辞」がまだ本当に覚えた状態になっておりません。大半忘れています。

ですから、「接頭辞や語幹・接尾辞」から「英単語」を連想できません。「接頭辞や語幹・接尾辞」が思い出せないのですから、そんなことは出来ません。

長期記憶にするときには、「接頭辞や語幹・接尾辞」を利用して覚えていません。覚える助けになっていません。

短期記憶にするときには覚える助けになっても、長期記憶にするときには少しも覚える助けにならず、忘れていくということです(注)。いっしょに覚えたのでは、実質(長期記憶にして本当の記憶にするには)少しも覚えやすくないということです。

「接頭辞や語幹・接尾辞」と「英単語」をいっしょに覚えたのでは、語源を利用して覚える記憶効果を大幅に減らしているのです。

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていればこそ、それらを利用して英単語を覚えられるのです。そうしなければ、1語1分半のペースでは覚えていけません。

(注) 短期的に覚える助けになっているだけです。見た目、覚える助けになっているだけです。

そこを多くの方が、錯覚しています。

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていなければ、昔と同じ

そもそも(英単語の)語源を利用する覚え方は、明治の文豪・森鷗外や夏目漱石もしていたくらいで、昔からあった覚え方です。ですから、いままで多くの方が語源を利用して覚えました。

でも実際に、1語1分半のペースで覚えている人はほとんどいません。そんな効率で覚えている人はほとんどいません。

それは、「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えていないからです。英単語とっしよに覚えているからです。

「接頭辞や語幹・接尾辞」を前もって覚えなければいけないことに、早く気づくべきです。でないと、昔と同じ効率でしか覚えられません。効率よく覚えることは、いつまでも出来ません。

語源を利用して覚えられるのは、1200語

「部品で覚える入試重要2300語 つむぐ英単語」(河合出版)は、大学受験用の単語集です。掲載されている英単語の大半は、頻出5000語の範囲内の英単語でしょう。

そして、「部品で覚える入試重要2300語」とあるだけに、語源で2300語を覚えられるでしょう。

しかしその2300語のうち、本書では、

(a) 派生語で覚えられるのを区別しました(注)。

(b) また、1語1分半のペースで覚えていけないモノ(語幹1個で英単語1語とか2語くらいしか覚えられないモノ)を除きました(注)。

以上の分を減らしつつ少なめに目安を立てると、頻出5000語の範囲内で語源を利用して覚えられる(1語1分半のペースで覚えられる)語数は、1200語くらいになるでしょう。

(注) 「派生語を覚える」というのは、語源の接尾辞を利用して覚えるものですから、「語源を利用して覚える」ということです。

しかし派生語の場合、英単語に接尾辞をつけるだけで簡単に覚えられ、先に元の英単語を覚えてから派生語を覚えれば、(後で少し説明しますが)数秒で覚えられます。そこで、1語1分半のペースの語源を利用した覚え方と区別しました。

(注) 語幹1個を覚えても、それで英単語1語とか2語くらいしか覚えられないのでは、1語につき3分も4分もかかります。

それでは、初めから英文読解しながら長文の英文の中で覚えるのと変わらないので、「語源を利用して覚えられる」から除きました

「4」 連語で覚える

連語で覚える …… 1語2分のペース

「英単語ピーナツほどおいしいものはない」(南雲堂、清水かつぞー著)

この単語集は、「inspect her baggage、荷物を調べる」などの「連語(コロケーション)」を列記しています。この単語集で覚えると効果的です。それは、

(a) 連語の中の 既知語の発音の流れに 新出単語の発音を乗せて覚えられるからです。

(既に覚えている) 既知語を利用して覚えられるので、楽に覚えられます。

「音の流れ」を覚える = 音楽的に覚えるので、楽に覚えられます。

(b) 「英単語ピーナツほどおいしいものはない」は、連語を、「旅行」とか「スポーツ」・「交通」などの内容別に列記しています。

そうしていますから、(いったん覚えた後時間が経っても) 内容から 連語の意味が連想されて思い浮かべられます。それで、覚えやすくなります

このように、連語の単語集で、しかも内容別に分類されているモノなら、1語2分のペースで覚えていけるでしょう。連語の単語集は、内容別に分類されている方が、断然覚えやすいものです。

連語で、1100語を覚える、

連語はカタカナ語や語源と違い、それを利用して英単語をいくらでも覚えていけます(注1)。

しかし、連語ではカタカナ語や語源・派生語で覚えるより時間がかかります。

ですから、カタカナ語や語源・派生語で覚えられないモノだけを、連語で覚えるようにすべきです。

ところで、(この後の「5」の「派生語で覚える」で説明しますが) 頻出語5000語から中学レベルの英単語1000語を引いた4000語の中で、1000語は派生語で覚えられます。

ですから、連語で覚える語数は、

1100語 (5000語 - 中学レベルの1000語 - カタカナ語の700語 - 語源の1200語
- 派生語の1000語)

となります。

そのため、「英単語ピーナツほどおいしいものはない」(3冊)には4000語が掲載されていま

すが。その4000語のうち2900語はチェックするだけですむようにすべきです（注2）。

（注1）全ての英単語を連語にできますから、連語を利用して英単語をいくらでも覚えていけます。

（注2）「英単語ピーナツ」3冊の4000語は、頻出語5000語から中学レベルの英単語を引いた4000語です。ですから、中学レベルの英単語以外の頻出語5000語をほぼ網羅しています。

「カタカナ語 → 語源 → 連語」の順に覚える

英単語を覚えるときの、カタカナ語や語源・連語・派生語（を利用した覚え方）の順序は、先程言いましたように、「連語で覚える」のがいちばん時間がかかるのでつぎの順序になります。

- （1）まずは（語源を利用して覚える単語集の中の）カタカナ語の英単語を覚えま
す。
 - （2）つぎに語源を利用して覚えて、
 - （3）連語を利用して覚えます。
 - （4）カタカナ語や語源・連語で英単語を覚えながら、その都度派生語を覚えていきま
す。
- ですから、派生語で覚えるのに順番はありません。

「5」 派生語で覚える

派生語で覚える …… 1語数秒で覚えられる

英単語には、元の語に「-- ion」や「-- fy」・「-- ful」・「-- ly」などの接尾辞をつけて品詞を変えた英単語・派生語がたくさんあります。

派生語は、（元の英単語に）接尾辞をつけるだけで覚えられます（注1）。

「exclude、 締め出す」を覚えていれば、その語に「-- ion」や「-- ive」・「-- ly」などの接尾辞をつけるだけで、

「exclusion、 除外」

「exclusive、 排他的」

「exclusively、 排他的に」

などの英単語は簡単に覚えられます（注2）。このように、

(1) (カタカナ語や語源・連語・英文の中で) 先に英単語を覚えていれば、

(2) その語に「-- ion」や「-- fy」などの接尾辞を付けたり取ったりすればいいだけです。

ですから、先に英単語を覚えていれば、数秒で覚えられます。

(注1) 先に派生語を覚えていたときは、逆に接尾辞をはずすだけで、（派生語の）元の英単語を覚えられます。

(注2) 語尾を少し変更しなければいけませんが、法則性がありますので、それはひとりで覚えてしまいます。

英単語と 派生語を いっしょに覚えるのは、間違い

多くの方が英単語を覚えるとき、派生語は関連しているからいっしょに覚えると覚えやすいと思っています。

しかし、それは間違いです。「語源を利用して覚える」で言った理由と同じです。

(1) 英単語といっしょに派生語を覚えているときは、互いを見ながら覚えているので、英単語との関連で派生語を連想できます。

ですからそのとき、短期記憶にするときには、派生語の関係を利用して覚えられていますから、覚える助けになっています。

(2) でもその後時間が経ったときは、元の英単語がまだ本当に覚えた状態になっておいません。大半忘れています。



ですから、英単語から派生語を連想しようとしても・関連で思い出そうとしても、そんなことは不可能です。出来ません。英単語が思い出せないのですから、そんなことは出来ません。

いっしょに覚えたたのでは、長期記憶にするときには、派生語の関係を利用して覚えられません。少しも覚える助けになりません。

短期記憶にするときには覚える助けになっても、長期記憶にするときには少しも覚える助けにならず、忘れていくということです(注)。いっしょに覚えたのでは、実質(長期記憶にして本当の記憶にするには)少しも覚えやすくないということです。

いっしょに覚えたのでは 派生語の関係の記憶効果は望めないのです。

もう一つ、英単語と派生語をいっしょに覚えてはいけない理由があります。

英単語の「exclude、 締め出す」と、
派生語の「exclusion、 除外」をいっしょに覚えるとき、

(a) 英単語の「exclude」を覚えるため、反復しなければいけません。

(b) それとともに、派生語の「exclusion」の、(英単語の部分の)「exclu」もそのとき覚えていないので、反復して覚えなければいけません。

つまり、英単語と派生語をいっしょに覚えるとき、

(a) 英単語を反復しなければいけないのはもちろんですが、

(b) 派生語の中の英単語の部分も反復しなければいけません。

時間差をつけて先に英単語を覚えていれば、そんな二重になることをしなくても済みます。いっしょに覚えるせいで、そうしなければいけなくなっています。

全然別の英単語を覚えるのと同じだけ、時間と労力がかかっています。派生語の関係があってもいっしょに覚えたのでは、時間も労力も別の英単語を覚えるのと同様なのです。

こういうことから、英単語と派生語をいっしょに覚えるのは間違いだということがわかります。

(注) 短期的に覚える助けになっているだけです。見た目、覚える助けになっているだけです。そこを多くの方が、錯覚しています。

派生語で覚えられるのは、1000語

英単語には大半、派生語があります。でも頻出5000語内の英単語をいくつか覚えても、それらの派生語で頻出5000語の範囲内に入っているのは少ないものです。英単語を3語覚えて派生語で覚えられるのは1語くらいの割合でしょう。ですから派生語を利用して覚えても、少ししか増えません。そのためこの覚え方を軽視しがちです。

でも、違うのです。

3語に1語の割合で少ししか増えないといっても、（頻出5000語から中学レベルの単語・1000語を引いた）4000語を覚えるとき、

1000語（3語：1語＝3000語：1000語）を派生語で覚えられるのです。

1語数秒で覚えられる英単語が1000語もあるというのは、すごいことです。派生語を利用して覚えていけば、大変効率よく覚えられます。ですからこの覚え方を大事にして、しっかり活用すべきです。

「6」 100時間で、4000語を覚える

100時間で、4000語を覚える

以上より、（頻出5000語から中学レベルの単語・1000語を引いた）4000語を覚えるとき、

(1) 700語をカタカナ語で覚えます。1語50秒で覚えます。

(2) 1200語を、語源を利用して覚えます。1語1分半です。

(3) のこり2100語（4000語－700語－1200語）です。それを、連語と派生語で覚えます。

派生語で1000語覚えるという目安ですので、連語で1100語（2100語－1000語）覚えることにします。1語2分です

(4) 派生語で1000語を覚えます。1語を数秒で覚えます。

4000語を覚えるとき、1語に50秒・1分半・2分・数秒かかります。

平均すると、（大分時間がかかるという目安にしても）1語につき1分半で十分覚えられます。

ということで、100時間（1.5分×4000語＝6000分＝100時間）で4000語を覚えられます。

いろいろな単語集を使って、カタカナ語や語源・連語・派生語で英単語4000語を覚えます。そのように覚えれば、4000語は100時間で十分覚えられます。

「100時間で、4000語」の後は、二段階目の「英文読解」

ただし以上は、（既に言いましたように）英単語を二段階で覚えるときの、一段階目です。ですから単語集を使って、カタカナ語や語源・連語・派生語を利用して英単語を覚えて、100時間で4000語を覚えた時点ではまだ、

(1) さまざまな意味を覚えていません。

(2) 「使える知識」になっていません。

英単語の本当の習得はできていません（注）。

「英単語」と「(1つの)意味」しか覚えていません。

「スペル」と「発音」と、「意味」しか覚えていません。

でも、英単語を覚えるとき最も時間と労力を要するコトは、初めて「英単語」と「(1つの)意味」を覚えることです。

カタカナ語や語源・連語・派生語を利用した覚え方は、「英単語」と「(1つの)意味」を覚えることだけに限っては、短時間で覚えられ大変効率よく覚えられます。

ですから、その後二段階目で覚えるとき、

(1) 英単語のさまざまな意味は、先に覚えた「(1つの)意味」に関連させて覚えられますので、楽に覚えられます。

(2) 先に英単語(のスペルと発音)を覚えているので、そのことに注意を向ける必要がありません。ですから、「使える知識」にすることに集中できます。

さらに、二段階目で覚えるとき、英文読解しながら長文の英文の中で覚えると、(既に言いましたように)英単語を周りの状況とともに覚えられます。ですから、

(1) 英単語などの英語知識のさまざまな意味を、楽に覚えられます。

(2) 英単語などの英語知識を、楽に「使える知識」にしていけます。

というわけで、二段階で英単語をマスターすると大変効率よくできるのです。

(注) でもそれくらいでも、(もちろん英単語に限ったことですが) TOEICである程度高得点も取れますし、有名大学の入試でも合格点は取れます。

ですので試験がせまっている方は、あきらめたりせずこれだけでも(100時間で4000語だけでも)してください。

「7」 単語集は、通読して覚える

単語集は、通読して覚える

普通、単語集で英単語を覚えるとき、

- ・ 毎日20語（30語・40語…）ずつ覚えていきます。
- ・ そして、前日覚えたのをチェックしてから、新たに20語（30語・40語…）を覚えます。

このように、

- (a) 覚えるときは、少しずつきちんと覚えていって、
- (b) 忘れないように反復していくべきだ、

とほとんどの人が思っています。

しかし、単語集で英単語を覚えるとき、**単語集は通読して覚えていくべき**です。

「世界一わかりやすい英語の勉強法」（中経出版）でも言われていますが、英単語は「ウロ覚えの反復」で覚えられます。

- (a) 毎日20語（30語・40語…）ずつ きちんと覚えていくよりも、
- (b) 単語集を通読して覚えていって、英単語を「ウロ覚えの反復」で覚える方が、
楽に覚えられます。

自然に記憶 → 長期記憶 → 関連性を利用して覚える

単語集で英単語を覚えようとするとき、（覚えようとしなくて）通読しているだけでも記憶効果はあります（注1）。つぎのようなわけです。

- (1) （単語集を通読して）英単語に目を通すだけでは、英単語の発音は覚えられません。

でも発音できないからといって、その発音を少しも覚えてないということはありません。発音の一部が印象に残っているものです。何か（自分に）相性のいい部分をひとりで覚えていきます。**自然に一部の発音を覚えてしまっている**ものです。

- (2) その後時間が経って何日か経つと、その発音の一部は**長期記憶**になっています。その記憶は初めのときより強くなっています。

- (3) そうすると、（単語集を通読して）再び同じ英単語を読んでいるとき、記憶している一部の**発音の流れに**他の部分の発音を乗せられます。

一流れの発音にして覚えています。発音を連ならせて覚えています。つまり、既知の一部

の発音との関連性を利用して覚えています。

それで覚えやすくなるのだと思われます。

単語集を通読していれば、無機的な「英単語の発音」でさえ、以上のように、関連性を利用して覚えられます。ですから、「英単語の意味」や語源で覚えるときの「語幹」なども、単語集を通読していれば、以上のような記憶効果があり覚えられます。

ですから、単語集や参考書などは前日の復習などせず通読してやっていっていいのです。覚え込もうとしなくていいのです。「ウロ覚え」で先さき行っていいのです（注2）。

それに対して、単語集で毎日20語（30語・40語…）ずつしっかりきちんと覚えている場合、（そのときに覚え込んでいるので）長期記憶になる前に覚え込むので、長期記憶になったモノを利用できません。無意識に働いている脳の働きを利用できません。それで、楽に覚えられないのです。

（注1）通読といっても、もちろん理解したり・イメージしたりはしなければいけません。

（注2）「前日の復習などせず」と言いましたが、ストレスにならない程度に軽くでも、当日や前日の復習をするのなら、もちろん復習した方が効果は上がります。

（注3）もちろん、以前やったかどうかさえ分からなくなるまで放っておいてはいけません。見覚えがなくなるまで放っておいたのでは、記憶効果はゼロになってしまいました。いくら先さき行っていいと言っても、見覚えがあるときに2回目・3回目・…の通読をすべきです。

では具体的に、2回目・3回目・…の通読をどのくらいの期間ですればいいかについては、

- （1）嫌にならない程度に・ストレスにならない程度に、繰り返し（反復）が出来るようにすべきです。
- （2）それと、（いま言った）見覚えがあるときに繰り返せるようにすべきです。

以上を考慮しつつ、みなさん試験的にやって決めるのがいいと思います。

時間のロスなんて、気にする必要はない

そうは言っても、「ウロ覚え」で先さき行くよりも、毎日きちんと覚えていって忘れないように反復する方が、（忘れる率が低く）時間のロスが少ないので効率よく覚えられますでしょう。

でも、そんな効率の差なんて気にする必要はありません。そんな時間のロス・その程度の効率の差なんか、気にする必要はありません。

(a) 全体からみて、そんな時間のロスは数日遊んでいたくらいのことです。

(b) 世の中に、そんなに記憶効率をよくしなければいけない程のきびしい競争や試験なんてありません。

(c) そもそも記憶効率に、そんなに気にかける必要はありません

記憶より思考（理解や応用・創造性）が効果的に出来ているかどうかの方を、気にすべきです。

英語の勉強なら、英文読解や英作文（リスニング・英会話）の勉強が思考的学習です。これらの勉強を効果的にするかどうかの方が、ずっと大きな（学力の）差になります。

ということもあり、単語集は通読してやっていくのがいいでしょう。

精神的ストレスを少なくでき・より楽に勉強できますので、実際に達成しやすい方法でしょう

。そもそも、単語集で毎日きちんと覚えていって、忘れないように反復してやってるというのは、中々できません。大半の方が失敗するやり方です。

というよりも、（それで成功したとしても）記憶の学習に精根使い果たし、肝心の英文読解や英作文などを効果的に勉強できないようでは、少しも効率よく英語を勉強していることになりません。